別紙様式３

上越教育大学研究プロジェクト　終了報告書（若手研究）

研究代表者　所属・職名　人文・社会教育学系・講師
氏　　名　　長谷川　佑介

研究期間　平成２９年度

研究プロジェクトの名称	英文読解テストの分析課題を通した「思考力」育成の試み
研究プロジェクトの概要	本学は現職教員再教育の重点化を目指す大学であり，学校現場に密接に関連した教育研究を行うことを基本的な目標としている。本研究は，教師を目指す院生や現職教員が定期テスト等を改善するための新たな視点や方策を身につけられるようにすることを目指したものである。本研究の土台となった昨年度のプロジェクトでは，英文読解テストの構成概念を検証するための新たな枠組みを開発した。その成果に基づき，本研究では院生の「思考力」を育むために英文読解テストを教材として活用する方法を検証した。特に，「英文読解テストの設問には，表面的な理解を問う text-explicit 型と，より深い思考を促す text-implicit 型という 2 種類がある」という事実に着目し，英文読解テストを作問・分析する活動を通して院生の「思考力」を育む実践を行うとともに，昨年度開発した枠組みのさらなる改善や応用の可能性を検証した。
研究成果の概要	本学の修士課程で開設している「英語科教育教材分析演習」の授業において，教材および測定具としての英文読解テストを受講生に分析させる演習を実施した。大学入試センター試験の英語リーディング問題および受講生各自が持ち寄った英文読解テストを素材とし，昨年度のプロジェクトにおいて開発した枠組みを参照して設問の特性を分析した。この枠組みには、英文読解テストの設問ひとつひとつが英文中のどの範囲の情報と対応しているかを特定する第一段階と、英文の情報に基づいて設問に解答する際にどのようなプロセスが要求されるかを判断する第二段階の 2 つが含まれる。しかし，第一段階において判断の評価者間信頼性が不十分である可能性が明らかになったため，さらに前段階を設けるなどの改良を行った。教材分析演習では，受講生は理論的背景を踏まえて個々の設問の特性を分析し，その結果を相互に発表しあい，討議しあうことで対話的で深い学びが得られるようにした。受講生からは，今後は新たな視点で期末テストを作成できそうだといった前向きなフィードバックが多く寄せられた。
研究成果の発表状況	Hasegawa, Y. (2017). Analyzing explicit and implicit reading questions in a term-exam: A case study. *JLTA Journal*, *20*, 57–75. (日本言語テスト学会，査読あり). 長谷川佑介. (2017). 「期末テスト改善のための設問分析：リーディング問題の明示性に注目して」. 第 43 回全国英語教育学会島根研究大会. (島根大学松江キャンパス). 長谷川佑介. (2017).「英語教育研究はここが一番おもしろい！リーディング研究の面白さ」. 英語教育編集部 (編),『英語教育 2017 年 10 月号』 (pp. 64–65). 大修館書店.
学校現場や授業への研究成果の還元について	上記の通り，本研究および昨年度のプロジェクトに関連する研究成果を英語教育関連学会の年次大会および学術論文において発表し，教員向けの雑誌記事としても公開した。また，2018 年度の上越教育大学出前講座として「英語リーディングテストの分析演習」を新規開設する予定である。